

五十嵐ゆうこの米國小売業最新レポート

2022年5月6日

ToGoodToGo App will End Food Waste

食の廃棄ロスの為に登場したアプリ

2015年9月16日に米国農務省（USDA）は、国内の食品ロス、廃棄物削減目標「U.S. 2030 Food Loss and Waste Reduction goal」を発表し、“2030年までに食品ロスと廃棄物の半減を目指す”目標を取り決めました。

決定後から外食や食品小売業でも目標に向けて行動することを優先し、様々な取り組みに投資しています。

ですが残念なことに未だ米国内で生産される全ての食品の40%が廃棄処分されていると言われています。

国連環境計画によると昨年は1900万トン以上の食品を廃棄し、廃棄物は埋立地を埋め尽くし、温室効果ガス排出量の10パーセント以上を生み出す結果となっています。



そこで現在、地元のグロサリーや外食の余剰食品の情報をアプリで公開し、美味しい食品を廃棄せずに購入者に届けることを目的とした 2015 年にデンマークで起業した『TooGoodToGo』に熱い視線が集まっています。

ToGoodToGo はアプリで消費者が地元企業の余剰食品を低価格で購入する事によって地域レベルで食品廃棄に取り組み、環境に対して変化をもたらすことを使命としています。

このようにサステナビリティの一端を担う存在になることを目指して起業した TooGoodToGo は、アプリでベーカリーやカフェ、レストラン、グロサリーストアやホテルなどにフードロスを執り行い、利益を上げるだけでなく新しい顧客の開拓にも役立っています。

米国では 2020 年の 10 月にニューヨークを初めとしてスタートし、昨年からはサンフランシスコ、そして今年に入ってからオレゴン州ポートランド、最近では南カリフォルニアでも利用できるようになりました。

米国で展開する ToGoodToGo アプリのマーケティング責任者であるクレア・オリバーソン氏は「私たちの使命は美味しい料理を本当に喜んで頂ける人々に供給できるようにすることです」と語っています。

その一例ですが、オレゴン州ポートランドの人気ベーカリー Big Sky Bread Company では、残ったパンを Food Bank(恵まれない人々向けの食料配給施設)に寄付していますが、クッキーやバゲット、ペストリー(菓子パン)などの商品はその日のうちに売れなければゴミ箱行きとなっていました。

「それらは未だ美味しく頂ける状態でしたが、店には完璧に見える商品を陳列しなくてははいけません。」と同店の責任者アレックス・デプケ氏は述べました。

ToGoodToGo と提携する以前の Big Sky Bread Company で、一晩にバゲット 10 本とペストリー 12 個を平均的に捨てていたそうです。

提携後は残ったパンを詰めて通常の 3 分の 1 の価格で販売する『サプライズバッグ』として提供することになりました。

夕方の 17 時前後に毎日 2~3 のサプライズバッグがアプリで紹介され、希望者はたった 4 ドルで 12 ドルの価値があるパンを購入することが出来ます。

通常、15 分以内に売り切れるそうです。

ToGoodToGo で一律の手数料を差し引き、Big Sky Bread は残りの金額を受け取ります。

このパンは、ゴミ箱直行を免れることができるのです。
デプケ氏は「このシステムは非常に順調でお客様にも好評です」と語っています。
ポートランドという街はもともと持続可能に対する考え方が強い地域で、このアプリは小さなコミュニティでも大きな成長が期待されています。

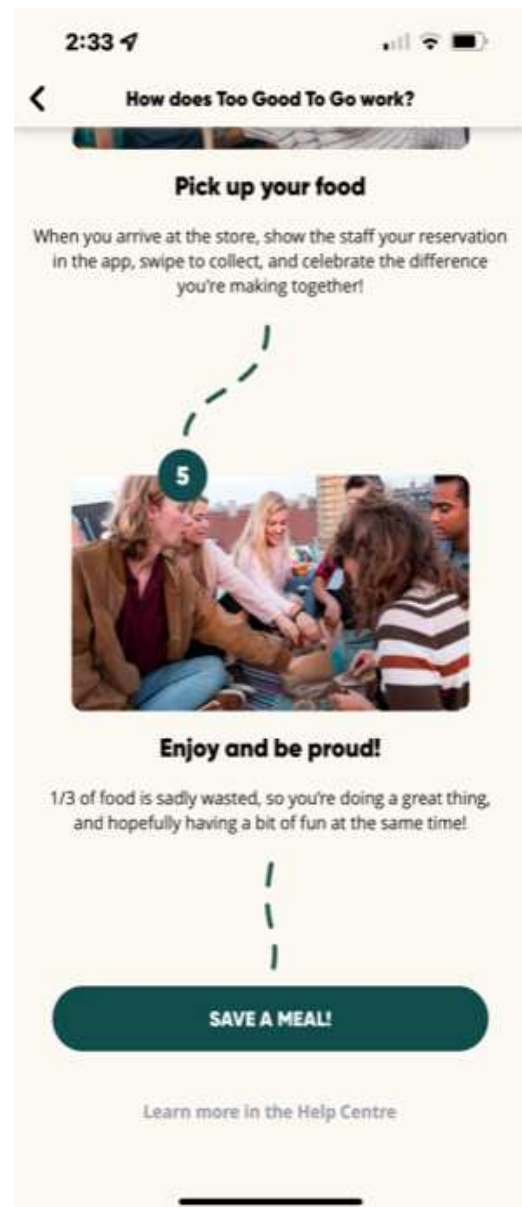
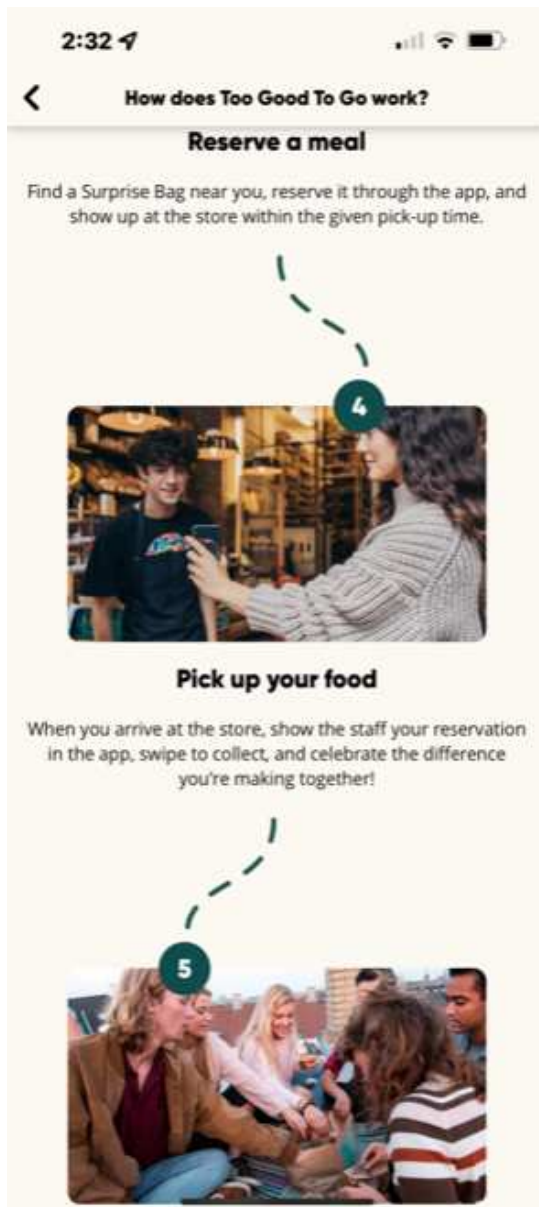
The image displays two sequential screenshots of a mobile application interface. Both screenshots show the time 2:32 and standard mobile status icons (signal, Wi-Fi, battery). The title bar for both is 'How does Too Good To Go work?' with a back arrow on the left.

Left Screenshot:

- Step 1: A dashed line leads from a teal heart icon to a photo of a woman at a cafe counter. Below the photo is the heading 'Explore the app' and the text: 'With Too Good To Go you can save surplus food from your favorite restaurants, cafes, and stores.'
- Step 2: A dashed line leads from the top to a photo of a child receiving a paper bag. Below the photo is the heading 'Find a surprise' and the text: 'Instead of throwing away perfectly good food at the end of the day, these places offer whatever they have as Surprise Bags.'

Right Screenshot:

- Step 3: A dashed line leads from the top to a photo of hands holding a smartphone displaying the app's interface. Below the photo is the heading 'Reserve a meal' and the text: 'Find a Surprise Bag near you, reserve it through the app, and show up at the store within the given pick-up time.'



ToGoodToGo の仕組みについて解説致します。

How does it Work? (その使用方法とは?) :

アプリをダウンロードしてログインし、スマートフォンやタブレットから直接地元の商品を見ただけという手軽さです。

お店のメニューから特定商品を選ぶことはできませんが、代わりに“サプライズバッグ”と名付けられた袋にその日に売れ残った美味しい商品が入っており、割引価格となっています。

登録済クレジットカードで購入決定を行い、店舗の営業時間に基づいて保留している袋のピックアップ時間と注文の詳細と追加のビジネスメモが送信され、ToGoodToGo からリマインダーが届きます。

サプライズバッグの内容はお店や日々状況で異なります。

袋に詰められた商品は消費期限がありますので、早めに召し上がって頂くことをお勧めしてします。

How you save money (どのような節約のスタイルですか?) :

値段設定は店舗によって異なりますが、平均で\$ 20相当の商品が袋詰めされて販売価格は定価の約 1/3~1/4 の設定です。

カフェやベーカリーは USD4.99、レストランのミールは USD5.99 が一般的な価格です。



世界人口 77 億人のうち 9 人に 1 人は栄養不足と言われ、年間で約 13 億トンの食品が世界中で廃棄されており、それは生産されている食品の 1/3 に値するそうです。

ちなみに日本では廃棄食品は年間に 600 万トンあるとされています。その一方で、世界で飢えに苦しんでいる人々への食料品援助の量は年間に 420 万トンとされています。

今まで以上に食の廃棄を無くす為の取り組みを行う必要性を強く感じます。

To good to go とは“廃棄は勿体ない、美味しく頂ける良い食品”という意味も含んでいます。

現在は 40 年ぶりの高騰を記録しているインフレの影響で食品の高騰が国民のお財布を圧迫し、特に低所得層や仕送りで生活する学生たちにとって日々の食費に苦勞する状態で、この仕組みが拡大すれば提供する側もされる側も Win-Win な状態となります。

先日、ToGoodToGo アプリについて取材したニュース番組を拝見しました。マンハッタンの人気カフェで購入した夕食用のサプライズバッグを自転車で受け取りに来た若い学生が取材を受けていました。

学生はアプリを利用し週の半分の食事を購入しているようで“価格的な満足以上に美味しい食事を無駄にしないことに貢献できるのが嬉しい”と答えていたのが印象的でした。

また店名は伏せてありましたが、街中にあるグルメ食料品店でもスタッフが商品の状態を丁寧にチェックし、“サプライズバッグ”に\$20 相当の賞味期限が切れる前の総菜や青果を袋詰めしているところも放送され、“きちんとした商品を提供することは店の良い宣伝にもなる”と取材に答えていました。

私も早速アプリをダウンロードしましたが、スタートしたばかりのロスアンゼルス市では未だ加盟店数が少ないのが現状ですが、数か月も経たないうちに店舗数は増えるとの予測です。

既に多くの店が加盟しているニューヨーク、シカゴ、ポートランドやサンフランシスコなどでは加盟している人気店も見つけたので、今後、訪問した際は是非活用したいと考えています。

そして近い将来には、日本でも使えるようになる事を期待しています。

